

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 可茂特別支援学校 学校運営協議会（第3回）
- 2 開催日時 令和7年2月26日（水） 10:30～12:10
- 3 開催場所 可茂特別支援学校会議室（10:30～11:10 喫茶利用）
- 4 参加者

会長	板津 幹彦	NPO法人プラス・ワン理事
副会長	板倉 寿明	愛知淑徳大学非常勤講師
委員	若尾 真理	可児市こども発達支援センターくれよん所長
	三好 正司	元公立学校教頭
	蔵澄 寿磨子	御嵩町あゆみ館施設長（欠席）
	西本 敬貴	牧野区長（欠席）
	板津 厚子	当校PTA会長
学校側	大竹 陽平	校長
	村山 朋子	事務部長
	河原 春恵	教頭
	本田 知子	教頭
	久保 幸世	小学部主事
	神野 智美	中学部主事
	小木曾 齊昭	高等部主事
	中島 啓介	教務主任

5 会議の概要（協議事項）

(1) 令和6年度の自己評価・学校関係者評価について

学校：令和6年度の自己評価（資料）

意見1：地域での学校紹介展示や企業による学校見学、児童生徒の新聞紙面での活躍の姿など、本校のことを外に向けてアピールしていくことは大切なことだ。続けていってほしい。

意見2：小学部で身体を使った運動を大切にしていると聞いた。例えば、玉砂利を敷いたところを裸足で歩く活動を取り入れるとよい。

意見3：PTAの取組について、児童生徒を取り巻くすべての人が「P」であるべきだ。祖父母も保護者の兄弟もどんどん巻き込んでいけるとよい。

意見4：支援センター部の業務量はどうか。

⇒担当者は出張が多い。地域ごとに担当を割り振っているものの、業務量はかなり多い。

意見5：本校を卒業後、トラブルになり関係機関に相談することがある。本校にも連絡を取りたい時がある。その際の窓口はどこか。

⇒進路指導部が担当している。

意見6：地域の学校でも低年齢の段階からきちんと指導できるようにしていくことが将来に

向けて大切である。そういった意味でも、支援センター部の存在は重要だ。

意見7：PTA活動については、大人が連携して学校に関わるのが大切だと考えている。
協力したいと思える大人を増やしていきたい。

意見8：地域の連携が進み、どんどんよりよい学校になってくれることを願っている。

意見9：教育の分野にもいずれAIが導入されていくと予想される。福祉分野にも試験的に導入され、個別の計画作成を補助する取組があると聞いた。注視していったほしい。

(2) 令和7年度の学校運営について

学校：令和7年度学校経営概要(案)及び主な年間行事(案)(資料)

意見1：公開授業を見に来た人が、その後自校でどう生かしているかを知ることができるとうい。

意見2：支援センター部は高い専門性が必要で、大変な業務である。役割をどこが担うか、特別支援学校なのか、あるいは県教委なのか、という議論が必要ではないか。
⇒支援センター部の役割は大変大きい、同時に校内の職員の業務負担にもつながっている。適切な人員配置を含めて県教育委員会の検討が進むとうい。

6 会議のまとめ

- ・第3回学校運営協議会では、今年度の成果と課題、来年度の学校運営方針等について、全委員の理解を得ることができた。
- ・当校の取組や児童生徒の活躍する姿等を保護者や地域の方に伝える機会や手段が増えてきた。今後も、積極的に情報発信を行い、児童生徒を取り巻く大人が連携して学校運営に関われるような環境づくりに努める。
- ・支援センター部による支援や公開授業へのニーズが多くあることから、地域の中で本校が必要とされていることを再認識した。一部の職員に負担がかからないよう学校全体で業務内容を見直しながらか働き方改革(働き甲斐改革)に取り組み、役割を果たしていく。